

ゴヘイニクバエ

Sarcophila japonica Rohdendorf

ハエ目ニクバエ科

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

日本における近年の生息確認はきわめて少なく、絶滅の恐れが高い。

形態

体長5～6mmの小型ニクバエで、他種のニクバエに比べてかなり小さい。他のニクバエに見られる胸部の3本線模様はなく、あっても、極細の線が2～4本見える程度である。オスの第6背板が第1生殖背板と癒着しているのが特徴。雌雄ともに額の幅は複眼の幅より広く、額縁剛毛をもつ。

国内分布

1965年ごろまでは石川県と鳥取県の砂丘に普通に見られたが、その後、まったく記録されなかった。2000年代になって石川、鳥取、新潟の各県で発見され、日本海側の沿岸部に分布している。国外ではロシア極東部、韓国に分布する。

県内分布

1960年代において金沢市金石海岸で記録があるだけであったが、2005年に白山市倉部海岸で生息が確認された。

生態

成虫は1960年代の調査では、6月から8月にかけて海浜植物上でハマベニクバエと共に多数採集されたと記録されている。2000年代の各県の記録でも成虫は海浜植物群落内で確認されている。

生息地の条件

成虫は海浜植物群落の発達している所に生息する。

生存の危機

海浜砂丘地の大部分は波浪浸食による海岸線の陸側への後退がきわめて著しく、また、陸側からの工事や植林の海側への進出、さらに、護岸工事により海浜植物帯の消滅が顕著である。そのため本種の生息域は各地で激減しつつある。(A)

参考文献

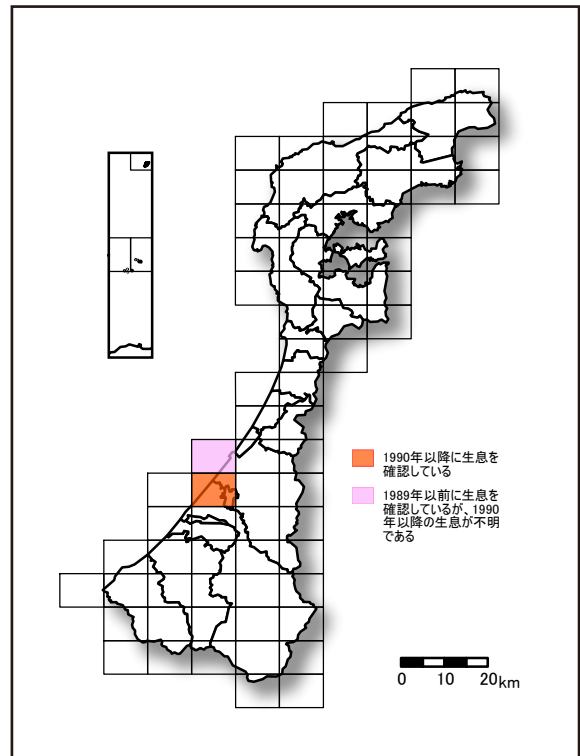
堀 克重・倉橋 弘 1962. 日本未記録のニクバエ2種. 昆虫, 30(2):174.

Kurahashi, H. 1975. Studies on the calypterate muscoid flies from Japan. XI. Subfamily Agrinae (Diptera, Sarcophagidae). Kontyu, 43(2):202-213.

古田 治 2005. 石川県におけるゴヘイニクバエの記録. はなあぶ, (20):89.



写真提供者: 国立感染症研究所



県内の分布